

木曽川水系河川整備計画(変更原案) 意見用紙

※	ふりがな お名前	むとう ひとし 武藤 仁
※	ご住所	〒500 岐阜市-----
	ご連絡先 (差し支えなければご記入願います。)	
<p>良好な自然環境の保全・再生及び魅力有る水辺空間の創出に対する ご意見【本文 第3章第1節第3項2(4)、第3章第2節第3項2(1)(2)(3)】</p>		
<p>【本文第3章第2節第1項3(1)】 (1) 河床・河岸の維持管理 河道掘削工事等の実施において、新たに「規制緩和の拡大」「民間が有する力の活用」等が加筆され、強調されていることは理解できません。変更(加筆)しないでください。</p> <p>世界農業遺産に登録された長良川中流域とりわけ岐阜市内において、現在、河畔林の皆伐など景観・環境を全く無視した護岸工事や河道工事が大規模に進められています。まるで長良川の「水路化」工事で、貴重な遺産である長良川が壊されていくことに、市民の心を痛めています。現場では、不安を抱く周辺住民との軋轢がありますが、河川行政当局には現場状況が十分届いていないようです。川とのかかわりあいの中で、歴史的に地域住民と成り立っている確認や約束を反故にする工事や河川整備計画に反する工事も見受けられます。</p> <p>加えて、鵜飼船や観覧船の場当たりの河道工事は、市民や漁師のひんしゆくを買っています。岐阜市職員と河川工事業者の賄賂汚職も発生し、汚れた金も動いています。</p> <p>これらは、河川管理者の管理能力の喪失、現場職員の削減、当局内の業務の引継ぎの欠陥、民間業者への仕事の丸投げなどに原因があると考えます。</p> <p>「治水対策」「国土強靱化」の錦の御旗の下で、景観・環境を全く無視した工事業者まかせの理不尽な河川事業が拡大する状況の下、地元住民の声を良く聞き行政の責任で河川整備と維持管理を進める体制づくりを「河川整備計画」に盛り込むべきです。</p>		

長良川遊水地に対するご意見

【本文 第3章第1節第1項1(3)、第3章第1節第1項4(2)】

美濃市横越における「遊水地」整備計画は取り下げるべきです。

河道の中に建設されるこの洪水調節池計画は、遊水地と言えるものではありません。河道内に建設される「調節池」は、形を変えたダム施設に過ぎず「流域内の遊水機能を活かした洪水調節施設等によって河道への負担を低減させる」(基本方針)を見据えたものになっていません。

遊水地の整備については岐阜県の「長良川流域における総合的な治水プラン」に唱われている「当流域に存在する霞堤といった伝統的な防災施設の機能や重要性」等を踏まえ、地域の治水の歴史的経過を尊重した遊水地の位置設定・整備を住民合意をえながら計画すべきものです。

横越「遊水地」計画は、極めて唐突なもので、「基準地点忠節において……約200m³/sの流量低減」の帳尻あわせの計画でしかありません。受け止める側の地元住民から「河道内の遊水地が障害物にならないか」「一つの流れにまとめるのは危険ではないか」「周辺堤防は大丈夫か」等の不安の声が出るのは当然です。

横越に建設される調節池は計画湛水量・面積から高さ約8mの堅固な壁の建設が想定されます。説明資料によっては囲繞堤や周囲堤の高さが左岸堤防高さより高い絵図もあります。住民にとって最も不安なことです。また、流れの一本化により左岸堤防が顕著な水衝部となります。その水衝力と対策についても全く説明がありません。

また、右岸横越地区については、この地区の背面山の手側から流下する水の排水が問題です。これまで、この地形的に閉ざされた地区の内水は右岸堤防に設けられた排水口によっ排水されていたようです(それでも豪雨時には内水氾濫を引き起こしている)。周囲堤が建設されることにより排水不可能となりますが、その対策の説明もありません。

これらの疑問には「計画中」との回答にとどまり、基本的なところで地元住民を納得されるものになっていません。基本的合意がないもとで河川整備計画に「横越遊水地」を取り入れるのは反対です。候補地選定については、伝統的治水の歴史をもち、従来から議論されてきた地域において最優先に追求すべきです。

遊水地整備にあたっては、該当地域の土地利用規制や誘導、浸水に対応できる構造の建築物の新設・改築への助成など、自治体と連携した積極的な施策が不可欠であると考えます。計画変更案にはその提示が求められます。